



滝野東小学校だより

令和2年12月2日 文責 神田

きみのやさしさはウィルスとたたかう力になる

兵庫県内においては、新型コロナウイルス感染症が広がりを見せていますが、本校の子ども達は元気に登校しています。

11月25日(水)から朝のマラソンが始まりました。8時10分が運動場に集合する時間ですが、それまでに何周も走っている子どもがたくさんいます。その子ども達の走っている表情を見ると、「今日は〇周走るぞ!」という意気込みが伝わってきます。思いを形にして行動できるところが、滝っ子のすばらしいところです。

もちろん、走った後は、手洗い・うがい・アルコール消毒を徹底しています。新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常生活にも、一部制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いています。学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかるとの可能性があります。

そこで、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要になってきています。学校では、新型コロナウイルス感染症に関する正しい知識を伝え、日常生活で予防することの大切さを学習しています。また、学年に応じて、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える学習をしています。

ある教室では、「感染症にかかった友だちにどんな声かけをするか」という教師の問いかけに対して、子どもからは、「誰だってかかるよ。」「大丈夫だよ。」「差別なんてしないよ。」「いつも通りにするよ。」という発言が次々と出ていました。子どもの言葉通り、人を思いやるやさしさが、感染症とたたかう力になると強く感じました。右の言葉にあるように「人にはやさしく、ウィルスにはきびしく」を合言葉にしたいものです。

感染症に対するわたしたち大人の反応は、子ども達の受け止め方にも大きく影響します。学校でも、継続して指導していきますが、ご家庭でも、子ども達が感染症への正しい理解のもとに行動できるよう、ご協力よろしくお願い致します。

【下記の動画をぜひともご覧下さい】

日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの感染症」の考え方の動画(約6分)を紹介します。「病気」「不安」「差別」という「3つの感染症」の拡大をとめるために自分には今何ができるのか、不安を感じたらどうすればいいのか、感染症になった人・関わる人とどのように接するべきなのかを考える内容になっています。ぜひ、ご家庭でもご覧になっていただき、感染症に関わる社会問題について話し合ってみてください。



きみのやさしさはウィルスとたたかう力になる

コロナとのたたかいは、
まだまだつづくかもしれない。
ウィルスとたたかうには、力が必要なんだ。
不安になったり、差別をしたりすることは、
きみたちからパワーをうばってしまう。
でも、やさしいきもちは力になる。
だからいつも
まわりへのやさしいきもちを忘れず、
ウィルスとたたかおう。
人にはやさしく、
ウィルスにはきびしく。

(出典：差別・偏見をなくそうプロジェクト)

文科省公式



